

研究主任として研究指定校の研究をマネジメントする ～「自治的集団」を目指す道德教育の研究～

教職実践応用領域 学級づくり履修モデル
後藤 裕考

序章 はじめに

第1節 置かれた場所

「空いた時間に校長室に来てください」そう書かれた1枚のメモから全ては始まった。そこで待っていたのは、「教職大学院で学ぶつもりはあるか」という突然の話だった。戸惑いはあったものの、自分の力を高める機会をいただけたことに感謝し、大学院への進学を決めた。そんな私に、大役が回ってくることになる。それが、研究指定校の研究主任だ。

勤務校は、私が大学院に進学する年から市の研究委嘱を2年間受けることが決まっていた。そこで、大学院の学びを生かし、研究主任として、研究を推進してほしいと依頼があったのだ。

文部科学省は、教職大学院の目的を、学校における指導的役割を果たし得る確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーの養成と掲げている。私は、研究指定校の研究主任という役を背負うことで、大学院で学ぶ確かな理論を現場で生かす機会を得たのだ。

私の「置かれた場所」は、研究指定校の研究主任。それも、教職大学院の2足の草鞋を履きながらである。この恵まれた環境だからこそ取り組めた実践を本稿に記す。研究主任として、どのように研究をマネジメントし、学校全体に広げていくか、また、どのように学校独自の理論を構築するかなど、研究主任なら誰もが持つ課題に、大学院で得た理論と現場の実践を往還させ、検証することで一つの答えを出そうとするのが私の研究である。

第1章 研究主題の設定

第1節 主題設定の理由

本主題は、序章で述べたように、研究主任として研究をマネジメントする中で得た知見を少しでも広めたいという思いで設定している。では、副題の「自治的集団」と「道德教育」の課題意識は、どこにあるのだろうか。まず、その点について論じていく。

第1項 なぜいま道德なのか（社会的背景）

平成31年4月1日から「特別の教科道德」が中学校でも全面実施された。それを受けて、現場では「教科としての道德」「考え、議論する道德」に注目が集まると同時に、反対や不安の声が上がっている。

道德の教科化を進めたのは、安倍政権である。教育再生実行会議は2013年に「いじめの問題等への対応について」とする提言を発表。大津市の中学2年生

が2011年にいじめを苦に亡くなったことを念頭に、「子どもが命の尊さを知り、自主性や責任感などの人間性・社会性を育むよう」道德を教科化することを求めた。

「特別の教科道德」になったことで、大きな変更点が2点ある。それは、国の検定教科書を使うこと、教師が子どもを評価することだ。この変更点によって、「修身」と同じように、愛国心を一方的に押し付けるのではないかと、子どもの道德心を教師が評価することは正しいと言えるのかなど反対や不安の声が上がっている。

こうした声と向き合うためにも、まずは教師自身が国の定める「特別の教科道德」と向き合い、考え、議論することが必要である。

第2項 自治的集団に込めた想い（勤務校的背景）

学校の実態を把握するために、SWOT分析を用いて、令和元年度5月に、全職員を対象にアンケートを実施した。

【表①】SWOT分析の結果 生徒 教員・学校

生徒	教員・学校
強み(Strength) <ul style="list-style-type: none"> ・素直で指導が入りやすい ・落ち着いて秩序のある集団 ・仲間の意見を取り入れられる <p style="text-align: center;">秩序ある生徒集団</p>	強み(Strength) <ul style="list-style-type: none"> ・研究発表に向けた意欲の高まり ・教師間のチームワークの良さ ・若い教師のネットワークが軽い ・部活動に熱心 ・道德教育が充実しつつある <p style="text-align: center;">まとまりある学校</p>
弱み(Weakness) <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に発言できる生徒が少ない ・不登校生徒が多い ・自分で考えて行動できない ・人任せになっている ・新しい価値を創造する力が乏しい <p style="text-align: center;">主体性、創造力の不足</p>	弱み(Weakness) <ul style="list-style-type: none"> ・若手教師を中心に授業力不足 ・生徒の将来を大きくみた創造的な教育ができていない ・伝統を重視し、時代の風潮に過ぎない古い考え ・強引に物事が決まり、意見を出しにくい雰囲気 <p style="text-align: center;">授業力・学級経営力の不足 マネジメントの不足</p>

この結果から、勤務校は、生徒が落ち着いて素直であるが、創造性や自主性に欠けることが分かった。更に、学校としてまとまっていることが強みであり、弱みとして、授業力不足や学級経営で悩んでいる教師も少なくないということ、マネジメント力が不足し、旧体制の教育が行われていることが分かった。

まとまっていることが強みであり、弱みとして、授業力不足や学級経営で悩んでいる教師も少なくないということ、マネジメント力が不足し、旧体制の教育が行われていることが分かった。

【表②】SWOT分析の結果 主題推進委員

主題推進委員
強み(Strength) <ul style="list-style-type: none"> ・30・40代で力のある教師が揃っている ・気さくで教師からも信頼される存在 ・労働意欲が高い ・良くない現状を改善しようと動ける <p style="text-align: center;">力と意欲のある教師集団</p>
弱み(Weakness) <ul style="list-style-type: none"> ・仕事を任せられすぎている ・長時間労働 ・小学校勤務、研究発表未経験者有り <p style="text-align: center;">多忙化・経験不足</p>

これはSWOT分析を、主題推進委員の項目でまとめたものである。この結果から、主題推進委員は力と意欲のある教師集団であることが分かった。

これらの結果から、主題推進委員を核に、研究をマネジメントし、OJTの

手法を取り入れて研究を推進することで、生徒の主体性や想像力を育むだけでなく、教師の力量を向上させ、生徒と教師を共に自治的集団にしたいと考え、本主題を設定した。しかし、主題推進委員は、既に多忙な状態にある。また中には、研究発表会の経験がない教員も在籍する。そういった Weakness を解決したり補強したりしていくことが、研究をマネジメントする上では大切である。そして、その中心となることが、研究主任の役割の1つである。

第2節 研究の目的と価値

上記の主題設定の理由を踏まえ、以下の目的を設定し、その価値を記す。

第1項 目的

- ・学習指導要領を基にし、自治力を育む道徳教育論を構築する。
- ・研究をマネジメントし、勤務校の道徳教育を充実させる。
- ・生徒・教師集団を共に自治的集団にする。

第2項 価値

- ・実践的価値
研究指定校として、全職員が道徳教育に取り組むことで、生徒の自治力を育むことに加え、学校全体の教育力が高まる点。
- ・理論的価値
<マクロの視点>
国の政策である道徳の教科化を受けて「学習指導要領に基づいた道徳教育」を充実させる点
<ミクロの視点>
勤務校の実態に合わせ、自治的集団を育む独自の道徳教育論を構築する点。

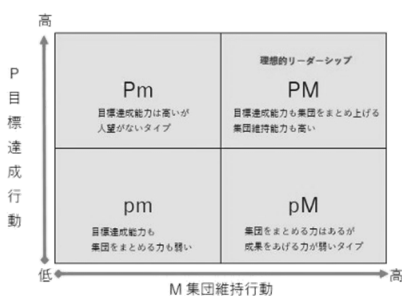
第2章 先行研究

仮説と手立てを設定するにあたり、以下の先行研究を参考にした。

第1節 研究をマネジメントする理論

研究主任として研究をマネジメントする上で取り入れた主な先行研究をまとめる。

第1項 PM理論

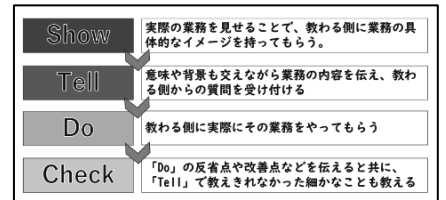


左の表は、三隅二不二が提唱した、PM理論を表にしたものである。三隅(1966)は、リーダーシップの機能を2つの次元から解説した。1つ目は、目標達成機能であるP(performance)

である。2つ目は、集団維持機能であるM(maintenance)である。数々の実証研究の結果、業種の違いに関わらず、業種に関するリーダーシップの効果は、PM型、M型、P型、pm型の順である。

第2項 OJT (On the job training)

OJTとは職場の上司や先輩が部下や後輩に対して、実際の仕事を通じて指導し、知識、技術などを身に付けさせる教育方法である。その手順は、右の図にある「4段階職業指導法」となっている。



第3項 ECRS (イクルス) の法則

2015年に文部科学省は、「学校現場における業務改善ライン」を示し、多忙化の実態を明らかにした。これを受けて、2018年に豊田市は、「豊田市教職員多忙化解消プラン」を策定した。そこで、取り入れられた理論が、トヨタ自動車が業務改善で取り入れているECRSの原則である。



これを受けて、2018年に豊田市は、「豊田市教職員多忙化解消プラン」を策定した。そこで、取り入れられた理論が、トヨタ自動車が業務改善で取り入れているECRSの原則である。

第4項 Curriculum Management

中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説総則編によれば、文部科学省は、カリキュラム・マネジメントを以下の3つの側面で定義している。

1. 生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと。
2. 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと。
3. 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと。

一方、倉本哲男は、Curriculum Managementの原点は、高野が提唱した「教育課程経営論」であると主張する。更に倉本(2014)はCurriculum Managementを、「実践計画としての静的なカリキュラム観を越えて、PDCA過程論をふまえた動的なカリキュラム観(Action Research)を前提に、学校組織、及び協働するコミュニティー団体等の教育目標を実践化するために、教育内容・方法上の指導系列としてのCurriculum & Instructionと、それを支援する条件整備系列のManagement(Lesson Study等)との2系列を『融合』して、カリキュラムを開発・経営する組織全体(1次円・2次円・3次円)的な活動」と定義している。また、Curriculum Managementにおいては、

それを動かす実践者のリーダーシップが重要であるとし、右のように図式化している。



第2節 独自の道徳教育論を構築する理論

勤務校独自の道徳教育論を構築するにあたり取り入れた主な先行研究をまとめる。

第1項 学習指導要領

中学校学習指導要領（平成29年度告示）によれば、道徳の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てること」である。

学習指導要領が定める道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を養うことで道徳性は高まる。道徳性の諸様相は、序列や段階があるということではなく、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的な資質を意味している。

中学校の道徳の内容項目は、中学生の発達の特質を考慮し、内容構成の重点化を図ることを求めている。その際に取り入れたい工夫として、学校ごとに重点的に指導したい内容項目の設定や、関連的、発展的に捉えた年間指導計画の作成することである。更に、生徒が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うこととしている。

第2項 小さな道徳

「小さな道徳」とは、鈴木健二が提唱する5分から10分程度でできる道徳授業のことである。鈴木（2017）によれば、「小さな道徳」は子どもの心を育むだけでなく、教師の授業作りの力を向上させる効果がある。それは、「小さな道徳」の授業を作っているうちに、教材開発力が高まり、一時間の道徳授業をつくる力が身につくからだ。

また、鈴木によれば、子どもの道徳心を育むには、道徳の授業で得た認識の深まりや新たな認識からくる、子ども言動の変化を教師が的確に捉え、評価することが効果的である。個人の変化を道徳の評価とは別に、評価という形で全体に共有することで、個人だけでなく集団が育つのである。その具体的な方法と

して学級通信や写真を有効に活用する方法が考えられる。

第3節 生徒を自治的集団に育む理論

生徒を自治的集団に育む理論や、それを分析するために取り入れた主な先行研究をまとめる。

第1項 学級集団づくりのゼロ段階

河村茂雄（2010）は、日本の教師が望ましいと考える学級集団は、学級経営に関する先行研究を整理していくと、次のような状態であると定義し、「日本の学級集団と学級経営」にまとめている。

- 自由で温かな雰囲気でありながら、集団としての規律があり、規則正しい集団生活が送れている。
- いじめがなく、全ての児童生徒が学級生活・活動を楽しみ、学級内に親和的な支持的な人間関係が確立している
- 全ての児童生徒が意欲的に、自主的に学習や学級の諸々の活動に取り組んでいる。
- 児童生徒同士の間で学び合いが生まれている
- 学級内の生活や活動に児童生徒の自治が確立している。

更に、河村（2012）は、理想の学級集団であることの条件を、必要条件と十分条件に分けて以下のように示している。

必要条件

- I 集団内に、規律、共有がされた行動様式がある。
「ルールの確立」
- II 集団内に、児童生徒同士の良好な人間関係、役割交流だけでなく、感情交流も含まれた内面的な関わり、親和的な人間関係がある。
「リレーションの確立」

十分条件

- III 一人一人の児童生徒に、学習や学級活動に意欲的に取り組もうとする意欲と行動する習慣があり、同時に、児童生徒同士で学び合う姿勢と行動する習慣がある。

第2項 アドラー心理学

アドラー心理学の教育の技法の中に「勇気づけ」がある。この勇気づけは、褒めることと区別される。褒めるは、相手が良いか悪いかを判断する結果を重視した行為に対し、アドラーの勇気づけは、こちらが相手に対し感じていることを伝える過程を重視したものである。また、勇気づけの代表的な言葉は「ありがとう」「うれしい」「助かった」の3語であり、これらの言葉を「I（アイ）」を主語にした「肯定のアイメッセージ」で伝えることが、有効であるとしている。

第4節 教師を自治的集団に育む理論

教師を自治的集団に育む理論や、それを分析するために取り入れた主な先行研究をまとめる。

第1項 教師のリーダーシップ

河村 (2010) は、児童生徒に指示がずっと入る、授業に集中させることができる教師を適切なリーダーシップが発揮できている教師とし、教師が児童生徒にもつ勢力資源を以下のように6種類で示した。

- ① 準拠性…教師に対する尊敬の念, 信頼感
- ② 親近・受容性…教師に対する親近感, 受け入れてくれるという被受容感
- ③ 熟練性…専門性に基づく教え方のうまさ, 教育技術
- ④ 明朗性…教師の性格上の明るさ, 楽しい気分になること
- ⑤ 正当性…「教師」「先生」という社会的な地位
- ⑥ 罰・強制性…罰せられる, 成績に響くのを避けるため

日本の教師は、機能体の面が強い学級集団を運営していく役割上「準拠性」「親近・受容性」「明朗性」などの教師の人間的な面の勢力資源が不可欠になる。

第3章 研究の構想

目的を達成するために、先行研究を参考に、以下の仮説と手立てを立てる。

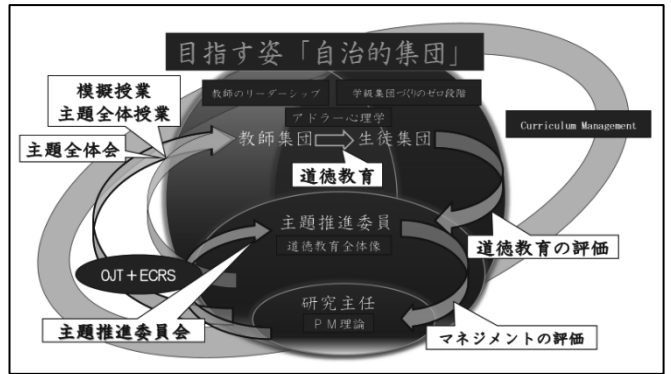
第1節 仮説

- ① 学習指導要領に基づいた道徳教育論を「小さな道徳」を取り入れて構築し、全職員で実施すれば、多面的・多角的に考えられる 自治的生徒集団が育つだろう。
- ② PM 型のリーダーシップを発揮しながら理論と実践を往還させ、OJT の理論を活用し研究をマネジメントすれば、教師の教育力が高まり 自治的教師集団が育つだろう。

第2節 手立て

- 手立て① (仮説①に対する手立て)
 主題推進員と共に学習指導要領の理論と「小さな道徳」を取り入れた、知立中学校独自の道徳教育全体像を構築し、全職員で取り組む。
- 手立て② (仮説②に対する手立て)
 実践者の固有性を分析し PM 型のリーダーを心掛けて主題推進委員に接し、研究をマネジメントする。
- 手立て③ (仮説②に対する手立て)
 研究主任として、教師の力量向上を目指し、OJT の理論に基づき、模擬授業や研究授業で実践を見せたり、主題全体会で理論を分かりやすく伝えたりする。

第3節 構想図



第4章 研究の実際

第1節 研究主任の固有性を分析する

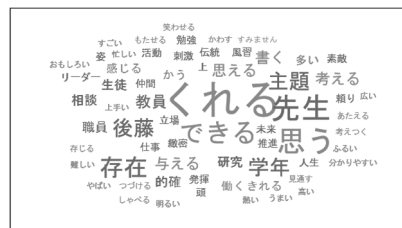
Curriculum Management において、実践者の固有性はマネジメントに大きな影響を与える。自らの固有性を理解し、それを生かすことは、研究で成果を生むために重要な要素であると言える。そこで、自らの固有性を分析することから、研究を始めた。これまでは漠然としていた自分という存在を、PM理論を通して見つめ直した。

【表③ PM理論に基づく固有性アンケート】

Q1.	経験年数	年 / 本校での勤務年数	科目
Q2.	先生方にとって、私はどんな存在でしたか？(普段の会話や主題推進などの様子から)		
Q3.	私は置けてはまるものに、すぐ置けてはまるものに印をつけてください。		
			P M

表③は、PM理論を基に作成した、固有性を分析するアンケートである。このアンケートを、理論部分を伏せて、主題推進委員と同じ学年を組む教員を対象に行い、固有性を分析した。

【資料① テキストマイニング ワードクラウド】



資料①は、アンケート項目 Q2 に書かれた記述をテキストマイニングにかけた分析結果である。

この結果から、実践者は、与える存在であることが読みとれる。

【資料② テキストマイニングによる10行要約】

また、聞き上手でもありますが、話し上手でもあります。後輩へのアドバイスも的確で周りから信頼されている。自分ももっと勉強しようとか、頑張ろうとか思わせてくれます。管理職になられたとき、その下で働いてみたい。助けられることがあるから、私も力になりたいと思う。書ききれないほど素敵な人だと僕は思っています。教員としてだけでなく、人生の先輩にあたる人です。よって、「未来を見つづける存在」かと思います。自分にはないものの見方・考え方を教えてくれるそんな存在でした。そのことを教員向けの主題講義の内容からも用意に想像できる。

この要約からも実践者が、多くの影響を周りに与えることで、信頼を獲得していることが分かる。

【表④ Q3の集計結果】

Q3私に当てはまるものに○、すくく当てはまるものに◎をつけてください。	◎	○	なし
①明確な方針をもち、指揮にあたることができる。	12	3	0
②場面に応じた的確な指示が出せる。	12	2	1
③問題に対して解決方法を具体的に示すことができる。	11	2	2
④目標までの計画を緻密に立てることができる。	8	5	2
⑤専門的な知識をもち、手段を交え仲間に教えることができる。	15	0	0
⑥急な対応が必要とき、ルール以外の臨機応変な対応を取ることができる。	10	5	0
⑦気軽に相談しやすい雰囲気がある。	12	3	0
⑧様々な話に興味を示し、熱心に話を聞くことができる。	10	5	0
⑨仲間の活躍を認め、感謝したり称賛したりできる。	14	1	0
⑩仲間に対し、プラスに働く注意や指導ができる。	13	2	0
⑪異なる年齢や立場の人をつなぐ役割を果たすことができる。	11	4	0

Q3のアンケートを集計してみると、⑤の項目で全員が◎を付けており、大学院で学んだ専門的な知識を、手段を交え仲間に伝えることに成功しているといえる。一方、④の項目が全体の中では低く、計画を緻密に立てる能力が乏しいことが分かった。

これらの結果から、実践者はPM型のリーダーシップを発揮していると言えるが、今後は、計画を緻密に立て、事前にそれを伝えていくことで、より高い成果を生むと推測される。固有性の分析で分かったことを、その後の実践に生かしていった。

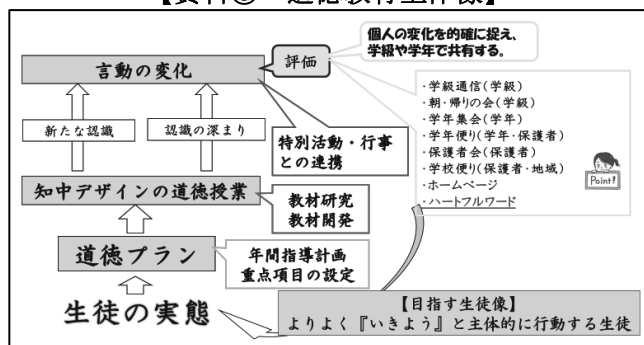
第2節 独自の道徳教育論を構築する

勤務校の研究主題は、自己を見つめ、仲間と語り合うことでよりよく『いきよう』とする生徒の育成である。この研究主題も、SWOT分析を用いて設定した。また、目指す生徒像を、よりよく『いきよう』と主体的に行動する生徒とし、その具体的な姿を、よりよく生きる上で大切なことを考え、自分の立場や良さを『活かして』、『生きよう』とすること、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら考え、他者と協働しながら、よりよい方向を目指して行動することとした。この目指す姿に迫るために考えたのが勤務校独自の道徳教育論である。

主題推進委員会を行った回数は、令和元年度が44回。今年度は、1月21日現在で、25回に及ぶ。中学校という多忙な現場でこれだけの回数を実施できたのは、ECRSの原則に基づき、授業時間に統合したからだ。教科担任制の中学校の強みを生かし、時間割に主題推進委員会を組み込むことで、時間を確保した。また、会議の簡素化も意識し、資料を読むだけで済む場合は、資料を配付し、空いた時間を作業に充てることで多忙な主題推進委員が効率的に働けるように配慮した。ここで大切なのは、質の高い資料を作ることである。質が高いとは、読みやすいに加え、読みたくなる資料である。そして、そういった資料は、読むと温かい気持ちになったり、読むことで新しい学びがあったりするものだと考え、感謝の気持ちや大学院で学んだ理論を分かりやすく噛み砕いて掲載するようにした。

主題推進委員会で作り上げた勤務校独自の道徳教育論が、資料③の道徳教育全体像である。

【資料③ 道徳教育全体像】



独自の理論を構築するにあたって念頭に置くことは、どこにオリジナリティーを持たせるかということである。私が、道徳教育論を構築するにあたって意識したのは、「効果的に組み合わせること」だ。そして、その組み合わせにオリジナリティーを持たせた。この道徳教育論は、「学習指導要領」の理論を基に、「小さな道徳」の理論を組み合わせている。今からそれを具体的に順に説明する。

第1項 道徳プラン

「道徳プラン」は、生徒の実態を捉えた上で作成した、特別の教科道徳の指導計画と別葉を組み合わせた勤務校独自の年間指導計画である。

【表⑤ 道徳プランの一部】

月	時間	内容項目	重点	教材名	テーマ	関わりをもつ行事
4月	1	D(2)よりよく生きる姿	道徳とは(オピニオンセッション)★		道徳で何を学ぶのだろうか	
4月	2	A(1)自主、自律、自由と責任	自	知らないよ。」(教)★	自分で考え、誠実に行動することの大切さは	
4月	3	B(7)礼儀	礼	礼儀正しさを(教)★	礼儀の意義とは	
5月	4	C(11)公正、公平、社会正義	義	小さな出来事(教)★	誰に対しても公平に接することの大切さは	
5月	5	C(10)遵法精神、公徳心	法	二つの手紙(教)★	規則はなぜあるのだろうか	
5月	6	C(15)学校生活、集団生活の充実	自	朝のめりの下の欄外★	集団における自分の役割は何だろうか	
5月	7	★主題全体授業★				体育大会

表⑤は、道徳プランの一部である。まず、「重点」の欄について説明する。勤務校では、重点内容項目を「秩序」と「自治」の2つの視点から捉えることにした。これは、職員を対象に本校の強みと弱みの視点で学校分析をしたところ、規則を守り落ち着いており、素直な生徒が多い反面、主体的に行動することを苦手としていることが分かったからだ。「秩序」を構成する内容項目として、B(7)礼儀C(10)遵法精神、公徳心C(11)公正、公平、社会主義の3つと、「自治」の項目としてA(1)自主、自律、自由と責任C(15)学校生活、集団生活の充実の2つを選び、合計5つを重点内容項目に設定し、授業時数を多く取ることや、早い段階で意図的に複数回それらの内容項目を取り扱った授業を実施することを考えた。

次に、「関連する行事」の欄について説明する。道徳教育は学校教育全体で行われるものであるが、勤務校では節目にある「行事」に重きを置いている。それは、授業によって高まった道徳性が行動に現れやすくなったと考えたからだ。そこで、核となる学校行事(宿泊行事、体育大会、文化祭など)を抽出し、その行事に合った道徳の授業を意図的に展開することで、「よ

りよく『いきよう』と主体的に行動する生徒」の姿が見られると考え、「関連する行事」を道徳プランに設定することにした。

第2節 知中デザインの道徳授業

道徳教育全体像の要となるのが「小さな道徳」と「対話的な道徳」を組み合わせた授業デザイン、「知中デザインの道徳授業」である。

鈴木(2017)の提唱する「小さな道徳」は、本来それだけで完結するものを指すが、勤務校では、「対話的な道徳」と組み合わせることで、生徒の道徳性をより高められると考えた。そして、それを表したのが資料④の指導案である。



勤務校は、8時15分から8時30分を朝の学習の時間としている。道徳の授業がある日は、その時間を利用して、「小さな道徳」を行い、そこでの気づきを「対話的な道徳」の授業につなげることを考えた。また、「対話的な道徳」の対話は、勤務校の研究主題の「自己を見つめ」と「仲間と語り合うこと」の両方を指す。具体的には、教材との対話や自分との対話を通して、自己を見つめたり、友達や時には教師と対話をする中で、多様な考えに触れたりできるようにした。これらの手段を用いることで、「新たな認識」や「認識の深まり」を得ることができると考えた。

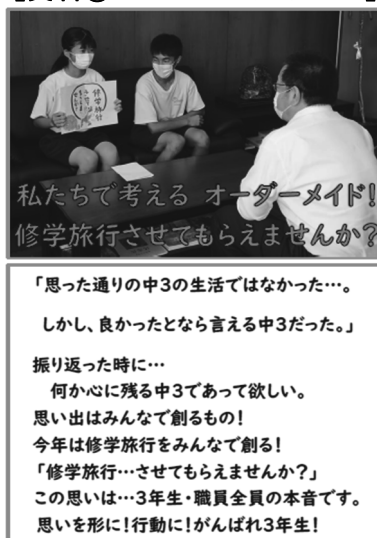
第3項 言動の変化

人の行動は「認識」によって変化する。「知中デザインの道徳授業」を通して、「新たな認識」や「認識の深まり」を得た生徒は、行事や日常生活の中において、その言動を変化させるだろう。言動の変化は一部の生徒から起こる。その変化を教師が適切に捉え、勇気づける評価をし、それを学級や学年、学校全体など大きな集団に共有することで、目指す生徒像に集団として迫ることができると考えた。共有の方法は、学級通信や黒板日記、ホームページなどの書く方法に加え、朝の会や帰りの会に担任が話したり、全校集会で校長が話したりするなど、幅広い手段を取り入れた。

また、今年度、勤務校が特に力を入れたのが「ハートフルワード」である。「ハートフルワード」は、生徒の行動や活動の写真に言葉を添えて作成する掲示物である。(資料⑤参照)写真は、よりよく『いきよう』とする生徒の姿だけでなく、その姿につながると考えられる物を幅広く使用した。また、言葉は、生徒のセルフエスティームを高めることを意識し、アドラー心理学の「勇気づけ」の理論を取り入れた。

作成した「ハートフルワード」は、「ハートフルワード」と名付けた掲示板に、足すように掲示していくことにした。そうすることで、よりよく『いきよう』とする仲間の姿が共有され、生徒同士がつながることで協働しながら、よりよい方向を目指して行動する生徒が育つと考えた。

【資料⑤ ハートフルワード】



第3節 主題全体会、主題研究授業

構築した独自の道徳教育論を主題全体会と主題全体授業を通して職員に伝えた。

第1項 主題全体会

【表⑤ 主題全体会一覧】

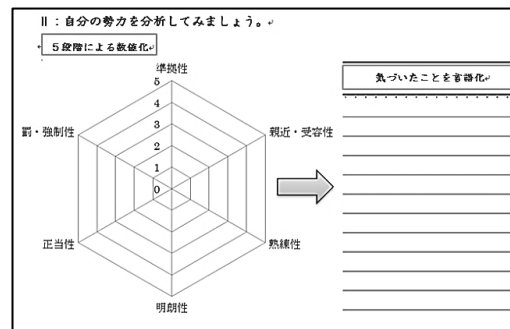
日付	テーマ
2019年4月7日	『職員みんなで』～考え議論する主題研究を目指して～
2019年5月25日	主題の現状と課題 講師の先生が決まりました
2019年7月29日	知中デザインの道徳 道徳で育む3つの力
2019年8月19日	研究授業と研究協議の持ち方について
2019年9月25日	主題全体授業から学ぶ 道徳的価値を追究した授業とは
2019年12月9日	聞いて納得 書いて実感 初めての道徳評価
2020年2月9日	中間発表リハーサル
2020年3月12日	知立中学校の目指す姿 教師のリーダーシップ
2020年4月2日	知立中学校の研究について ハートフルワードで自己肯定感を育む
2020年5月18日	そうだ研究しよう 知中デザインスケッチブック・アイデアブック
2020年8月26日	これまでの成果報告 今後の研究について知る
2020年8月26日	知中デザインの道徳について
2021年1月21日	研究授業の成果と今年の授業実践を振り返る
2020年2月10日	研究の成果報告 (予定)
2020年3月24日	来年度の研究に向けて (予定)

研究指定の2年間に、合計15回の主題全体会を行った。心掛けたことは、

ただ理論を伝えるだけでなくOJTの「Show」である。実践して見せることで、体感として理解できるようにした。例えば2019年7月29日の「知中デザインの道徳 道徳で育む3つの力」の会では、「小さな道徳」を模擬授業の形で職員に実践することで、その良さを感じ取ってもらえるようにした。

また、2019年3月12日には、自治的教師集団にするための理論として、河村(2010)の「日本の教師のリーダーシップ行動」を伝えた。そこでは、参加者に自らのリーダーシップをレーダーチャート(資料⑥参照)を用いて自己分析してもらった。

【資料⑥ 教師のリーダーシップ自己分析】



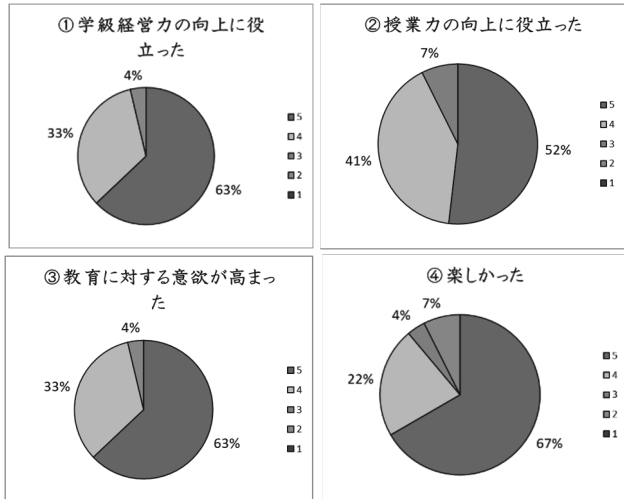
このレーダーチャートを1年後に再び実施することで、自治的教師集団に近づ

けたかどうかを分析することにした。

主題全体会は実施するだけでなく、PDCA サイクルを意識し、CとAを大切にすることで質の向上に努めた。Cのためのアンケート項目は、「学級経営力」と「授業力」を教師力と捉え設定し、それに加え、楽しいという感情が意欲につながると考え楽しさもアンケート項目に加えた。

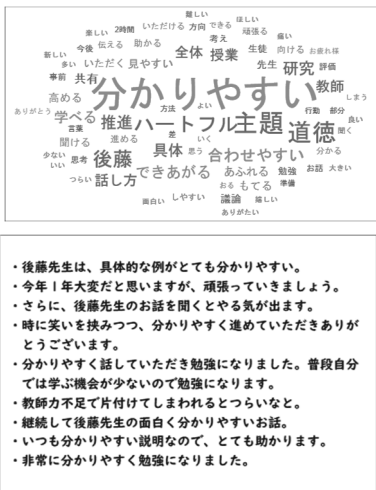
以下は、2020年4月2日に取り組んだ全体会、「知立中学校の研究について」の結果である。

【グラフ① 主題全体会アンケート結果 4/2】



この会では、勤務校の実態から取り組んでいくべき課題を設定し、その課題を克服するための手立てとして、ハートフルワードやハートフルウィークといったアドラー心理学の勇気づけを取り入れた自己肯定感を育む活動を示した。アンケート結果は、全項目において「5、とても良い」「4、良い」が9割以上を占める。その理由を、テキストマイニングを使って分析した。

【資料⑦ ワードクラウド 10行要約】

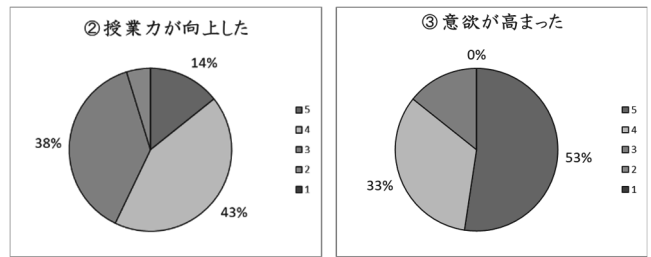


ワードクラウドでは「分かりやすい」という言葉が大きく、実践者の固有性の強みを生かした分かりやすいプレゼンが、教師力や意欲の向上につながっていることが推測できる。また、10行要約からも分かりやすい説明が意欲につながっている

ことが読み取れる。しかし、「教師力不足で片付けてしまわれるとつらい」といった意見もあり、研究に不安を抱える仲間がいることも分かった。

次の結果は、2020年8月26日に実施した、「知中デザインの道徳授業」の主題全体会後のアンケート結果である。

【グラフ② 主題全体会アンケート結果 8/26】

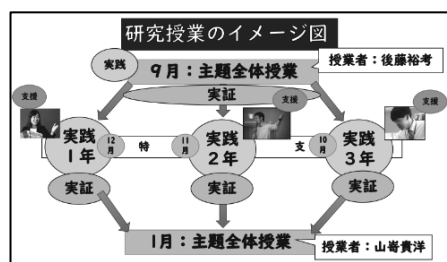


この全体会では、知中デザインの道徳授業の解説にとどまらず、学習指導要領が定める道徳の授業論についても説明した。授業力の向上を狙って行ったが、「実践してみなければ、授業力が向上したかどうかは判断できない」という意見が多く、OJTの4段階指導法のDoの必要性を感じた。そこで、夏休み明けから計画的に主題研究授業に取り組むことにした。

第2項主題研究授業

主題研究授業を計画するにあたり重視したのが、OJTのShow（見せること）である。そこで、研究主任である自分が全体授業を実施し、目指す道徳の授業を見せることにした。また、その後の主題学年授業においては、授業者を選択するだけでなく、各学年に配置されている主題推進委員が授業者を全面的にサポートできるように研究授業の一連の流れを構想した。

【資料⑧ 研究授業のイメージ図】



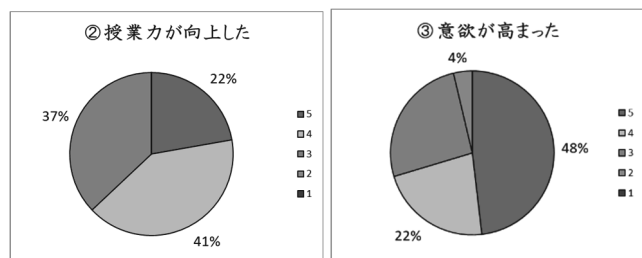
資料⑧は、一連の研究授業のイメージ図である。この予定を、早いうちに示したの

は、固有性の分析から、緻密に計画を立てる力が弱いことが分かっていたためである。固有性を知ることが、マネジメントに変化を及ぼした場面である。

①主題全体授業のまとめ

主題全体授業では、「はしのうえのおおかみ」（光村図書：1年きみがいちばんひかるとき）を教材に選んだ。「はしのうえのおおかみ」は、小学1年生の教科書に掲載されているだけでなく、中学1年生の教科書にも資料として掲載されている。あえてその作品を選び実践して見せることで、「ねらい」によって全く違う授業展開になることを実感してもらった。また、より深く理解してもらえるように、「指導案の解説書」を作成し、指導案を作成する上でのポイントや実践者の意図が全て分かるようにした。更に、「未来予想図」と名付けた、生徒の予想される反応も事細かに記した資料を配布することで、実践者の頭の中を見える化し、生徒の反応や授業の流れを具体的に想像することの大切さを伝えた。

【グラフ③ 主題全体授業アンケート結果】



グラフ③は、授業後のアンケート結果である。全体会で理論を伝えたときに比べ、実際に授業を見せたことで、授業力が向上したと思えた教員が多いことが分かる。しかし、肝心の意欲が減少している。原因を、自由記述欄から分析したところ、「道德の授業が分からなくなった」や、「後藤先生のようにはできない」といった意見から、これまでの道德とは全く違う授業を見たことで困惑したり、実践者との授業展開力の違いを実感したりすることで、自分には不可能と判断し意欲が後退したことが分かった。そこで、悩みを少しでも解決するために、「主題全体授業から考える」という資料を作成し、アンケートに記載された質問に一問一答式で答えるようにした。

【資料⑨ 「主題全体授業から考える」 一部抜粋】

Q: どうやったら後藤先生みたいに意見を捨ったり、問い返したりできますか？

この質問が最も多かったように思います。「生徒を見ること」これが最重要です。私は、黒板に文字を書いている、耳は背中について、そっちに意識が向いています。だから、本当に生徒の小さなつぶやきも聞こえているのです。机間指導をしている、目と耳が別に動いている、絶えず学級全体の生徒の発言を拾っています。

実は、鈴木先生に意味がないと言われてしまったグループの話合いも、生徒の発言を幅広くキャッチするのに役立っています。そんな聖徳太子みたいなことできない！と思われるかもしれませんが、やってみるとそんなに難しくありません。しかし、そのつぶやきを「関連付けられるか」は別問題です。

関連付けから問い返せる。しかし、この問い返しは非常にレベルが高いため、筑波大学付属小の加藤先生は、事前に思いつく限りの問い返しを考えて、指導案に書き込むことを推奨しています。ちなみに知立市の道徳指導員の角山先生は、この手法を取り入れられています。

② 主題学年授業のまとめ

実践者の全体授業後、10月から順番に3年、2年、1年と事前に示した計画の通り学年授業に取り組んでもらった。その中で研究主任として大切にしたいことは以下の3点である。

1点目は、ECSRの原則に基づいた、簡素化と統合である。授業後の全体協議会は時間対効率が低くなりやすい。事前に指導案を主題推進委員や学年で検討することで、授業後の協議会を簡素化した。また、取り扱った授業を、改善案を取り入れて全学級で実践することで、協議会と教材研究を統合した。

2点目は、自分が行っていたOJTの取り組みを、主題推進委員が若手教員に行えるようにした。学校全体を自治的教師集団に導くためには、実践者一人の取り組みではなく、その取り組みを波及させていくことが必要だ。そこで、実践者は授業づくりに積極的に関わらないことを伝え、主題推進委員が活躍する

機会を意図的に設定した。

3点目は、研究授業を繋ぐマネジメントの視点である。具体的には、「〇〇先生のバトンを繋ぐ」という題で、研究授業で得た成果や課題を次の学年に繋ぐ資料を作成した。その結果、3学年の研究授業を3本の矢に変えて研究を推進した。

12月に一通り学年の研究授業が終わると、若手教員が「後藤先生、今年度はもう研究授業をしないのですか？自分も挑戦したくて…」と相談に来るなど、研究授業が教員の主体的に学ぼうとする気持ちを行動レベルまで高める役割を果たしたことが分かった。

第4節 道德教育に取り組む

感染症の予防の観点から、今年度は当初計画していた「知中デザインの道德の授業」を要にした道德教育は難しいと判断し、第2節3項で紹介した、ハートフルワードを要に道德教育の実践に取り組んだ。この実践は、2020年4月2日の主題全体会を利用してハートフルワードの共通理解を全職員でした後、職員一丸となって取り組んだ実践である。

① 「ハートフルワード」を作成する

5月に入り登校が再開し、生徒の姿が学校に戻ると、感染症の不安、新年度の不安を少しでも和らげるためにも、「ハートフルワード」を積極的に作成し生徒を勇気づけていった。

【資料⑩ ハートフルワード】

そんな中、6月中旬に感染症対策をしながら、部活動見学が行われた。資料⑩は、部活動見学の1年生の行動を捉え、作成したハートフルワードである。生徒のよりよく『いきよう』とする姿を共有するために、ハートフルボードに掲示した。



この後 二人は先輩に向かって静かに礼をして移動しました。その礼に先輩は気づかなかったかもしれませんが、でも、その姿が私には とても美しく見えました。二人以外にも、たくさん美しい姿が見られた部活動見学でした。

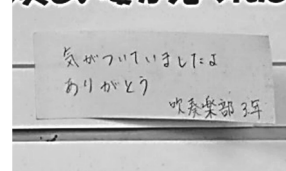
② 「小さな道德」

資料⑩をハートフルボードに掲示していると、ある日、付箋が貼られていた。

【資料⑪ 貼られた付箋】

(資料⑪)そこで、この吹奏楽部部員の行動を教材に、1年で「小さな道德」を行い、「先輩のすごさ」について考えた。

美しい姿が見られた



「小さな道德」では、「気づいていても怒られると思って自分は付箋を貼れないけど、先輩は行動してすごい。」「ありがとうと自分から言えることがすごい」といった意見が出た。この発言から、1年生は、3年生のよりよく『いきよう』と主体的に行動する姿に気づき、その行動をすごいと感じていることが分かる。

③「ハートフルワード」を教材に知中デザインの道徳授業をする

ハートフルワードが浸透してくると、生徒は、ハートフルボードに新しい掲示が増えるのを楽しみにするようになった。また、ボードの前に集まって会話をしたり、掲示された生徒を称賛したりする姿が見られるようになった。(資料⑫参照)そこで、これまでは教師が作ってきたハートフルワードを生徒が考えることで、生徒の道徳性を育み、その高まった道徳性が行動で表出しやすい体験と結びつけることを考えた。

【資料⑫】 ハートフルボード



「小さな道徳」では、相手を褒めるとはどうかを考えた。生徒の興味を引くために導入として「今から先生のことを褒めてください」と生徒に投げかけると、戸惑いながらも、「かっこいい」「優しい」などと生徒は呟いた。その後、生徒は、相手が喜ぶ褒め方は、普段から相手をよく見ることが必要だと気づいた。更に、行動の裏にある心情を読み取り、その心情に対する自分の気持ちや考えを素直に伝えることが、相手を認めることだと考えるようになった。

対話的な道徳授業では、4枚の写真を見せてハートフルワードを実際に考える活動を行った。

資料⑬は、生徒が授業の中で考えたハートフルワードである。「小さな道徳」の気づきを生かし、千羽鶴を作るという2年生の行動の裏にある心情を読み取り、それに対する感謝の気持ちを素直に伝えている。

【資料⑬】 生徒が書いたハートフルワード



タイトル: 思いのバトン
後輩達が千羽鶴を作ってくれた。私達もこれを見て、一人一人が気持ちを込めて折り、表現していく。短い時間の中でたくさんの思いを伝え合っているように思っている。

【資料⑭】 授業後の感想

行事のときほどは目に見えて一人一人がクタクタ元気を張り出す感じがせず、普段自分から気にかけている人が増えた。自分も同じように元気を出してあげたい。

資料⑭を読むと、生徒は「小さな

なことにも気がついていけるようになっていきます。」と書いており、ここから、よりよく『いきよう』とする心情の高まりを読み取ることができる。

このようにハートフルワードを要に、独自の道徳教育全体像に基づいた教育を全職員で取り組むことで、生徒は主体的に行動することができるようになってきた。今年度作成したハートフルワードは書籍

にして様々な場所に配布される。これによって勤務校の研究が広く周知されるだけでなく、教師も自分たちの研究に自信と誇りを持つことができた。

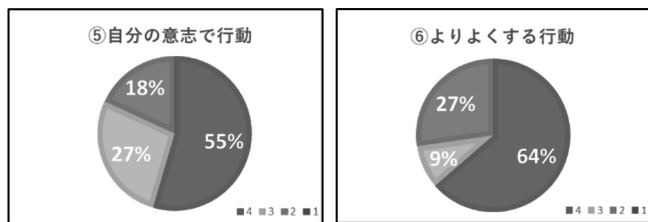
第5章 研究の成果と課題

第1節 研究の成果

第1項 自治的生徒集団

勤務校の目指す、よりよく『いきよう』と主体的に行動する生徒を視点に、自治的生徒集団になれたかどうかを分析するために、道徳教育を通して育んだ級長を対象にアンケートを実施した。

【グラフ④】 アンケート結果



【資料⑮】 テキストマイニング10行要約

先生方の支えがあったから最後までやりきれたと思います。前期級長だったからこそ、たくさんの成長ができたと思います。級長は、先生に頼らず自分たちでやるが多かったです。後輩先生の教えで頑張ることができました。最初は、小学校と同じようなことをするのかなと思っていました。例えばスライドが使えたら自分たちでパソコンを借りて自分たちで作る。先生たちのすごさを知れた感じがします。色々なことが学べて楽しめて笑い合えて級長が終わるときは...泣きました。僕は級長をやってみて、つまらなけれど楽しかったです。やりがいを感じるものがたくさんあって、学校に来るのが楽しみになりました。

これらのアンケート結果から、級長が勤務校の目指す、よりよく『いきよう』と主体的

に行動する力を身に付けたことが分かる。

【資料⑯】 級長の生活記録12/8

私は級長会と運営などをやっていると、いきなり、今大変な思いがしますが、みんな頑張っています。それは楽しかったです。級長会の秋には田舎のようなもので楽しんでいます。運営では今月始まった活動があります。4人で協力して、1人1人が頑張っています。そして、みんなが頑張ることをし、協力し合えるように頑張ります。私の頑張りで動くので、大変ではありません。

資料⑯は、12月8日に前期級長が書いてきた生活日記の一部である。この日記には、勤務校が目指す

生徒の姿と共に、実践者の研究が目指す自治的生徒の姿が詰まっている。そして、これは、偶然ではなく、道徳教育を充実させた中で、教師が意図的な「勇気づけ」を行った成果である。

【資料⑰】 級長の生活記録10/21

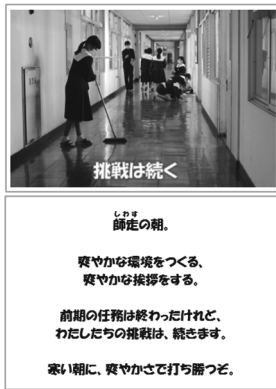
私は、後輩先生が大好きです。なぜかこの話を私にといいつつ、今日後輩先生から一通の手紙をもらいました。初紙は7月、大会に参加できなかったという内容でした。私に手紙を見た時、級長として頑張ったよかと感じた。後輩先生は私たちがやっていることを褒めてくれた。この手紙が、私に届きました。私は、いつも申し訳ない気持ちで頑張っています。でも、頑張ることができました。私は、頑張ることができました。

資料⑰は、資料⑯の結果を裏付ける資料である。資料⑰を読むと、実践者の勇気づけを意識した手紙を励みに、仲間と共に歩む気持ちを高めていることが分かる。

級長は、感染症によって文化祭が中止になると、自分たちの力で学年の文化祭を創った。更に、その準備期間の間、清掃ができなかったことを振り返り、朝早

くに登校して自主的に掃除を行うなど自治的生徒集団になっている。更に、その姿をハートフルワードにして（資料⑱参照）、他の生徒に共有し、より大きな集団を育むことができるのも、勤務校独自の道徳教育の良さである。これらの成果から、仮説①の正当性と手立ての有効性が証明されたと考える。

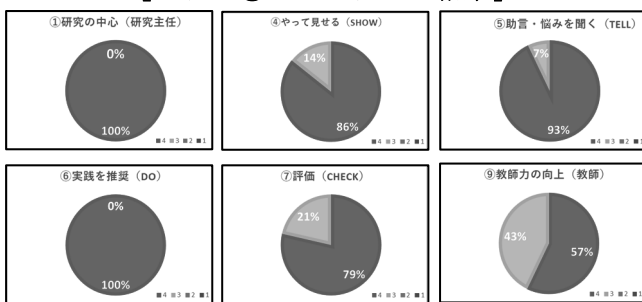
【資料⑱ ハートフルワード】



第2項 自治的教師集団

主題推進委員と、同じ学年を組む教員を対象にアンケートを実施した。

【グラフ⑤ アンケート結果】



【資料⑲ テキストマイニング10行要約】

道徳教育についてよく分からないまま初任として知中に来て、とても不安だった。1年生は少しずつ道徳の授業による豊かな道徳性が育まれていると思います。これだけ道徳について活動しているので、少しずつ変容はしていると思います。後藤先生が大学院で学んでいる内容に触れることができて、自分は楽しみです。自分自身も色々な視点から行事を見る癖がついてきているように思います。「3」である理由は、まだ伸びしろがあると感じているからです。道徳で相談したとき、親身に相談に乗ってくださいました。前向きに仕事や研究をしている姿、その姿そのものが学びになっています。まさに、山本五十六の言葉を体現していると思います。アイデアマンなので、いつも新鮮な気持ちで話が聞けます。

「姿そのものが私の学びになっています」という言葉からも、実践者の固有性が職員に与える影響の大きさが分かる。

また、アンケートの「教師力の向上」の結果や、「少しずつ変容してきている」「色々な視点から行事を見る癖がついてきている」などの言葉から、教師力が高まり自治的教師集団になってきていることが分かる。

これらの結果から、研究主任として取り組んだマネジメントが、自治的教師集団にする成果を上げたと言える。よって、仮説②の正当性と手立ての有効性が証明されたと考える。

第2節 研究の課題

OJTを通して教師力の向上に努めてきた。その結果、道徳教育に対する理解と実践力は高まったものの、道徳の授業力については、手ごたえを感じられていない教師は多い。この理由は、感染症によって、本来目指した「知中デザイン」の道徳授業が実践できなかったからだ。また、生徒の自治力も伸びしろが十分に残っていることが、アンケート結果から読み取れる。そこで、今後は、「小さな道徳」と「対話的な道徳」を連動させた授業の在り方を追究し広げることで、教師の授業力と生徒の道徳性を育みたい。

終章 おわりに

第1節 置かれた場所で咲きなさい

Bloom where God has planted you.
置かれた場所で咲きなさい。
Rather than give up, make the best of your life and bloom like a flower.
仕方がないと諦めるのではなく、人生の最善を尽くし、花のように咲くことです。

左は Reinhold Niebuhr が書いた詩の一部である。そして、感染症が広がる中、

私が想い続けたことでもある。「置かれた場所で咲きなさい」という美しい言葉の裏には、それを達成することの難しさが隠れている。しかし、我々はどんな環境であっても、生徒を育むために咲く強さを身に付けなければならない。戦後最大の国難と言われる世の中にあっても、私は研究を推進することができた。それは、大学院での学びと出会いがあったからだ。

現場で実践していただいただけでは見えなかった世界を、大学院で学ぶ理論が気づかせてくれた。出会った仲間が、私の世界を広げてくれた。小学生の頃から教師になることが夢だった。子どものころには出会えなかった、夢を語り合える仲間がここにはいた。この出会いを与えて下さった愛知県教育委員会の皆様、ありがとうございます。そして、誰よりも熱心にご指導して下さった鈴木健二先生、本当にありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。

最後に、最も近くで支えてくれた、愛する家族。迷惑を掛けました。でも、おかげで、2年間の学びを終えることができました。ありがとう。

置かれた場所で咲くために、私は、これからも種をまく。それは、自分が咲く花の種。それは、共に高め合う仲間の種。そして、その下で美しく花開く、子どもたちの種を。

《主な引用・参考文献》

- ・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」2017年
- ・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別の教科道徳編」年2017年
- ・朝日新聞「道徳、どんな授業になる」2018年4月1日付け
- ・鈴木健二「道徳の授業をおもしろくする！」教育出版2017年
- ・鈴木健二「新しい道徳授業の基礎・基本」日本標準2018年
- ・鈴木健二「新人教師の授業診断」明治図書2015年
- ・河村茂雄「日本の学級集団と学級経営」図書文化2010年
- ・河村茂雄「学級集団づくりのゼロ段階」図書文化2012年
- ・倉本哲男「アメリカにおけるカリキュラム・マネジメントの研究」ふくろう出版2008年
- ・倉本哲男「Lesson Study and Curriculum Management in Japan」ふくろう出版2014年
- ・三隅不二「新しいリーダーシップ—集団指導の行動科学」ダイヤモンド社1966年
- ・愛知教育大学教職実践応用領域「小さな職員室」2020年